

2010.12.30「この一年を振り返って」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今年も本当に皆様方にお世話になりました。今日は12月30日です。いよいよ新しい年を迎えることとなりました。この一年は一言で言えば混乱と失望の一年だったと思っております。政権交代から始まった今年は、鳩山元総理が辞任され、菅総理がこの年度の途中で総理に就かれましたけれども、菅政権もこの半年で瀕死の状態です。先の見えないままに、社民党ともう一度連立を模索したり、そうかと思えば、当然これは断られるわけでありますけれども、その対極にいらっしゃる平沼先生が率いる「たちあがれ日本」に秋波を送ったり、一体何を考えてこの連立話を持ちかけていったのか、本当に私も呆れてしまいました。

そして、何よりも呆れるのは、民主党の小沢議員を巡る対応であります。国会が開いている最中には、一切国会での招致について言及してこなかったものが、国会が閉じられると、小沢議員の問題の話に終始しています。それはまさに小沢議員一人を悪者にすることによって、自分達の立場を良くしていこうという民主党政権の左翼特有の正体が反映されていると言わざるを得ないと思います。つまり、誰かを悪者にして自分達が浮かび上がろうということなのです。もちろん小沢議員を国会に招致して問題を明かにすることは重要です。しかし、いわゆる政倫審という舞台では全く意味が無いのです。なぜなら、ここ

は国民に公開されず、また政倫審の主旨は自ら弁明するだけであるからです。例えば小沢議員に政治資金規制法違反の問題について私が質問しても、そのことに対して答えるという立場に小沢議員はいないのです。政倫審に出るということを経済に表明された様ですが、結局、政倫審に出ても一切事実関係が分からず終わるだろうと思います。だから我々は証人喚問を要求せざるを得ないのです。いずれに致しましても来年はそういうことも含め、民主党の内紛から次々と政治の混乱が生じるでしょう。そして間違い無く民主党は分裂すると思います。

こうした混乱した一年でしたが、ただ一つ良かったことは、民主党が政権を執ることにより、政治というのは誰がやっても同じではなく、しっかりとしたリーダーがいなければどうしようもなくなってしまうことが分かったことです。私もしみじみそれを感じたわけであります。同じく、官僚もトップに立つ者がとんでもない人間だと、これもやっぱり機能不全になると感じました。私はもともと官僚バッシングに対しては距離をおいて見ていました。というのも、官僚は長期的な視点で国の運営を考えていると思っていたからです。省益重視で国益を考えていない等、色々な批判がありますが、しかしそれでも長期的な思考や仕組みというのは、やはり選挙で選ばれて次々変わっていく人の中ではなく、官僚の仕組みの中にあると思っていたからです。そして、その官僚をしっかりコントロールするのが政治家の務めです。ですから、官僚バッシ

ングをする前に、まず政治家自身が身を正して、長期的視点で官僚と一緒に議論できるような度量を持たなくてはなりません。官僚バッシングの前に、そのような政治家をつくり出さなければならないというのが私の持論でした。

ところが、政権交代をして、官僚にもとんでもない人がいるなどと思わざるを得ないことがありました。それは北沢防衛大臣の下で事務次官通達が出されたことです。この通達によって、自衛隊員を政治活動に参加させないということに加えて、政治的発言をする人は自衛隊の中に呼んではならないと、自衛隊の行事に参加する一般人の言動にまで制限をしました。つまり、憲法で保障している言論の自由や表現の自由というものを一方的に抑圧したのです。まさに憲法違反の通達だったのです。通常、官僚は、法律的な立場からこのような政治の暴走をたしなめるのですが、北沢大臣とすれば、今自分達の政権が地に落ちている所にそれを批判する方が自衛隊にやって来て発言をされると自分達の立場がなくなるから、なんとかそれを黙らせたい、という気持ちだったのでしょう。その気持ちは分からなくもありませんが、それは全く御門違いの話であって、政権与党にいる方は国民の声が今どこにあるかということをしっかり把握しなければならないのです。政権与党なら、耳が痛い批判でも堪えて、しっかり認識し、反省していかななくてはなりません。ところが、この方々はそれを逆手に取って、そういう発言をする人はこの自衛隊の行事に二度と参加させてはならないし、またそういう発言をしないことを確認しなさいと通達したわけ

です。

普通こういう誤った通達を国務大臣が出す時、事務方が「大臣それは間違っていますよ、ご乱心もほどほどにしてください」と、しっかりと法律的な立場から官僚がたしなめるのが当然のはずです。ところが、今や、たしなめるはずの官僚も、北沢大臣の周りには彼の意向に沿ったイエスマンしかいないので、政治の暴走を食い止めることが出来なくなっているのです。私はその様子を見て、官僚もトップに立つ者がとんでもない人間だと、これもやっぱり機能不全になるのだと感じました。やはり政治のトップに立つ者の資質が問われるということを痛切に我々に教えてくれたのが、この一年であったと思います。そういう意味でも私達は、もうこれ以上民主党政権を続けさせるわけには行きません。

年が変わりますと、ますます政治の対立する局面は多くなってくると思います。来年は絶対に1日も早く民主党政権を倒す、そういう覚悟でがんばっていきたいと思っておりますので、また来年もよろしく御支援をお願いしたいと思います。それではみなさんどうぞ良い年をお迎えになりますことを心から祈念申し上げまして、本年最後の私のビデオレターを終わらせて頂きます。ありがとうございました。